

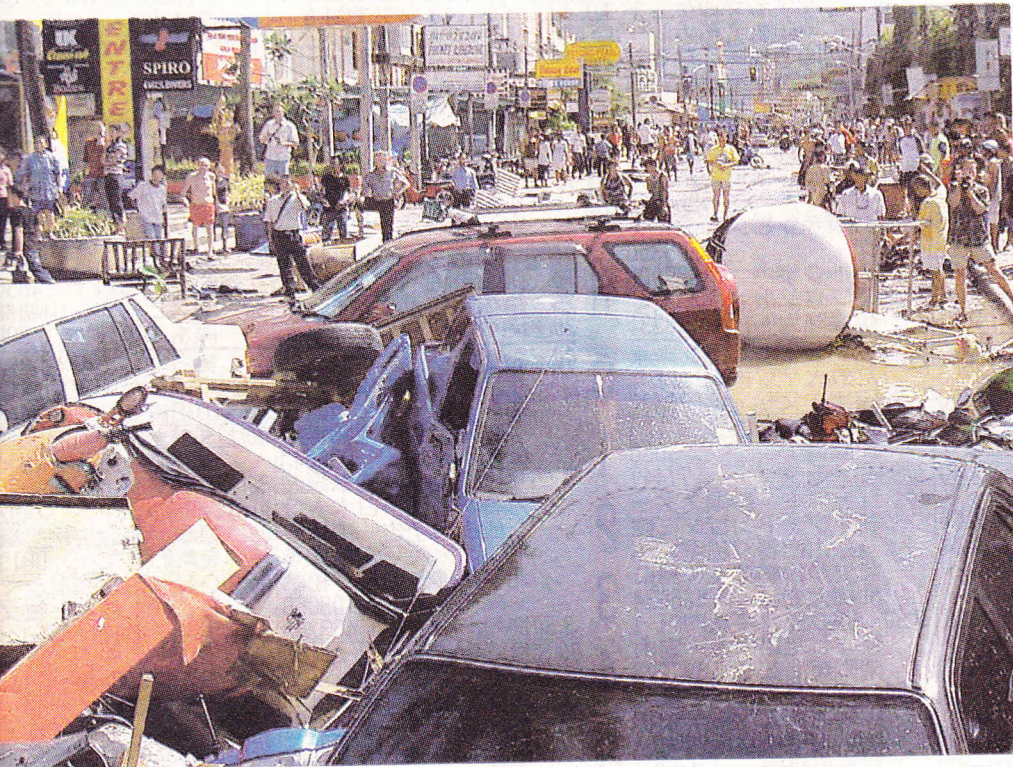
茶色の海「津波だ！」

スマトラ沖地震

リゾート地不意打ち

プーケット 旅行者ら必死の避難

「盛り上がった茶色い海水が、レストラン街をのみ込んだ」。二十六日にスマトラ沖から広がった大津波は、インド洋沿岸の国々に大きな被害を広げた。日本人にも人気のタイ・プーケット島では、多くの邦人が惨事に直面。旅行社も観光客の安否確認に追われた。



26日、タイ南部の保養地プーケット島で、津波で流されて大破した車を見つめる外国人観光客ら（AFP時事）

タイ・プーケット島で最つに割れた船が路上に打ちも被害の大きかった。パトンビーチ。ホテル「ナナイ・ビラ」に勤める毛利幸恵さん36によると、レストランや土産物店がひしめく二本のメインストリートは、水浸しで「壊滅状態」だという。タクシーやトラックが店舗に飛び込み、真つ二

つに割れた船が路上に打ち上げられた。逃げ帰ってきた宿泊客の話では、「レストランで、真つ茶色の水が盛り上がる海が見えたので、『津波だ！』と叫んだ。持ち物も残して車に乗り込み、一目散に逃げた」という。同島カロンビーチのホテル

「スパ」の大音直子さん(32)は、屋外にいた客の悲鳴で津波を知った。「ビーチとの間の道が濁流にのまれて、大きな乗用車も流されていた。ホテルが高みにあったので、皆さんが必死に逃げてきた」。朝の地震に気付いてはい

「津波だ」と電話を受けた。急いで屋外のレストランに出ると、第二波が襲って来た。朝食中の客をひき上ま

邦人ツアー 安否確認追われる

旅行各社

「近畿日本ツーリスト関西西ホリテイ」（大阪市浪速区）では、バンコク支店や現地の添乗員との連絡で、約八十人の無事を確認した。同社梅田営業所では、午後七時すぎに関西からプーケットへのツアー客

女性社員数人が参加者の安否を尋ねる家族からの電話に「現地で無事にしていることを伝える」と安心されていました。大阪府別の旅行会社では、男性社員が「情報が必要かを探る」と

「大波というより、低く速い流れの波だった。ビーチのおみやげ店が押し流されて、ヤシ細工の土産物が流れてきた」という。在タイ大使館員の話では、旅行社などを通じて日本人の安否確認を急いでいるが、プーケット島では津波で回線が寸断した模様で、電話がつながりにくくなっている。



スマトラ沖の地震を受けて、情報を集めるスタッフら（26日午後7時30分、大阪府北区梅田の「近畿日本ツーリスト」で）

「海外災害援助市民センター（CODE）」（代表理事・芹田健太郎・神戸大名誉教授）では、スタッフ

外務省邦人安全課には、二十六日午後八時現在、本人の行方不明情報などが入っていないというが、プーケットに旅行中の家族連絡が取れない」といった問い合わせの電話が数本